11月30日、京都市市民公開講座が開かれました

専門家の講演や体験談から

肺がん検診の大切さを再確認

講座のラストには「パネルディスカッション」が行われ、参加者から事前に寄せられた肺がんに関する質問に、専門家たちがそれぞれの考えを話しました。左から、濱口さん、毛受さん、平井さん、田崎さん、石見さん、堀さん

共催／京都市、京都大学、アストラゼネカ、ヘルステック研究所

がんの中でも死亡原因のトップだという、肺がん。最新の治療法や検診の大切さについて学べる「京都市市民公開講座　～はよ受けなあかん？肺がん検診～」が11月30日に開催され、参加者たちが熱心に耳を傾けました。主催は、「京都市」「京都大学」「アストラゼネカ」「ヘルステック研究所」。

総合司会は元NHKのアナウンサーの堀さん

11月30日、会場となった「キャンパスプラザ京都」には、幅広い年齢の人たちが訪れ、講師の話にうなづいたり、メモを取ったりする人も。

約2時間に渡り、肺がんの基礎知識や検診の重要性を伝える専門家の講演、「藤崎マーケット」の田崎佑一さんによるがん体験談などが繰り広げられました。

堀さんは「今日はみなさん一緒に勉強して、明日からのよりよい生活に結び付けましょう」と

京都大学大学院医学研究科呼吸器内科学教授の平井さん。基調講演や教育講演でも専門家の立場からコメント

「進行する前に治療を」との呼びかけで開始

総合司会を務めたのは、元NHKアナウンサー・堀潤さんです。開会のあいさつには、京都大学大学院医学研究科教授の平井豊博さんが登場。「治療法が進歩しているとはいえ、がんが進行してから治療するのは大変。早く治療を始めることが重要です」と呼びかけました。

基調講演では、肺がんの種類や治療法を解説

基調講演のテーマは、「肺がん治療の基礎知識」。講師は、同研究科准教授の毛受暁史（めんじゅとし）さんです。イラスト入りのスライドを見せながら、肺がんの罹患（りかん）者数や死亡率を紹介した後、種類や治療法を解説。「がんが局所にとどまっている場合は手術や放射線治療を、全身に広がってからは薬物療法や免疫治療を行うのが一般的です」

内視鏡を使った「ロボット支援手術」や胸を切り開く「開胸手術」の動画に、参加者が息を飲む場面も。前者は初期のがんで、後者はより進行したがんで行われるそう。視覚を通して、がんが進行するほど手術による体への負担が大きくなることを確認できました。

治療開始時期による、予後の違いが明らかに

続く教育講演では、同研究科特定講師の島本大也（ともなり）さんが、京都市民の健康診断やがん検診などの情報を集約した「京都市統合データベース」からわかったことをもとに、肺がん検診の重要性をアピール。「データ解析の結果、外科手術が可能な段階で治療を開始できた人ほど、生存期間が長く、医療費の負担も少ないことが明らかに」と話しました。早期に発見できるかどうかでその後の生活が大きく変わるのですね。

京都大学大学院医学研究科呼吸器外科学准教授
毛受暁史さん

「手術療法、放射線治療、薬物療法、免疫治療が肺がん治療の4本柱。手術療法には、胸を開く開胸手術、より傷が小さく痛みが少ない腹腔鏡手術、さらに患者の負担が少ないロボット支援手術の3種があります。京都大学では、近年ロボット支援手術の割合が増えています」

京都大学大学院医学研究科予防医療学特定講師
島本大也さん

「データベースの分析結果を見ると、2013年以降、肺がん患者の死亡割合は年々減少しています。この結果には、2010年代になってから、『免疫チェックポイント阻害薬』『分子標的薬』といった肺がん治療に役立つ新しい薬剤が保険治療になったことも影響していると考えられます」

最後は、パネルディスカッションが行われました

自分でできる対策は禁煙と肺がん検診の受診

最後は、堀さんと田崎さん、平井さん、毛受さん、濱口さんに、同大学院教授で予防医療を専門とする石見拓さんも加わり、参加者から寄せられた質問をテーマにしたパネルディスカッションが開かれました。

「肺がんになりやすいのはどんな人？」という問いに、毛受さんは「リスクが高いのは喫煙者ですが、中にはタバコの影響が少ない肺がんもあります」と回答。肺がんの予防については「はっきりした根拠のある予防策は禁煙だけ。だからこそ、自覚症状のないうちから検診を受けることが有効な対策といえます」と石見さん。

周囲にも検診を勧める働きかけを

「検診を受けていない人が行動するには？」というテーマの議論では、「検診の情報を入手したら、家族や友達に伝える働きかけも必要では」と石見さん。そのほか、「京都市では、がんセット検診をオンラインで申し込めるようにするといった受診しやすい環境づくりも進めています」（濱口さん）、「講座を受けたり主治医に聞いたりして肺がん治療の知識を身につけることも、受診のハードルを下げる方法の一つ」（毛受さん）といった発言がありました。田崎さんは、「インパクトのある検診の呼びかけをするのはどうでしょう。踊りが得意なタンクトップの二人組をキャンペーンに使うとか（笑）」と場内を和ませていましたよ。

みなさん、それぞれの立場で、検診の重要性を訴えました。

田崎さんは〝がん経験者〟としての思いを話しました

後半に登場したのは、お笑いコンビ「藤崎マーケット」の田崎佑一さん。

2017年、出演していた番組で紹介された人間ドックの様子を見て「虫の知らせか、自分も行ってみようと思い」受診、がんが見つかったという田崎さん。「入籍して間もない時期でした。妻を支えていくはずが、いきなり支えてもらう立場になってしまったんです」

「今ここに僕がいられるのは、がんを早期発見できたおかげ。みなさんも今日を機会に検診を受けてください」と田崎さん

「妻と共に戦った10日」と題して、自身と妻の日記を紹介しながら、がんの体験談を語ってくれました。当時、漫才コンクール「M－1グランプリ」への出場を控えていた田崎さんは、「これが終わるまでは手術を受けない」と決意。妻もその意志を尊重しますが、日記には、「できれば1日でも早く手術を受けてほしかった。腫瘍が大きくなったらどうしようと怖かった」という本音が。がん患者を支える家族の不安が伝わってきます。

準々決勝で敗退となり早速、手術に。「麻酔をかける際には、極度の緊張でバイタルサインが低下する場面も。術後は、のたうち回るほど痛かったです」と振り返ります。壮絶な治療の体験談に聞き入る参加者たち。

一方、相方のトキさんがタンクトップ姿で見舞いに現れたエピソードになると、会場全体が笑いに包まれました。

仕事復帰した今は、夫婦ともに検査を受けることの大切さを実感しているとのこと。「仕事を休んでいる間は収入面の不安もありました。たまたま受けた検診で初期に発見できたからよかったけれど、もっと治療が長引いていたら蓄えが尽きていたかも。皆さんは、保険などで万一に備えて心のゆとりを確保して」とのアドバイスも。

参加者からは「肺がんのことがよく理解できた」という声が多く寄せられました

京都市が実施する肺がん検診対象者は無料で受けられます

肺がん検診は人間ドックでも受けられますが、自治体が実施するがん検診を利用するのも選択肢の一つです。京都市保健福祉局 健康長寿企画課・担当課長の濱口大介さんからは、京都市の肺がん検診の紹介が。

「京都市では六つのがん検診を実施しています。肺がん検診は、主に胸部X線検査により実施。対象は40歳以上の市民で、一年に1回受けることができます」

肺がん検診の受診料金は、X線検査のみの場合は無料だそう。京都市が一部の費用を負担するため、低料金で受けられるのがメリット。「家族や大切な人のためにも、ぜひ受診を」と濱口さん。

京都市の肺がん検診を受けられる場所は、各区役所・支所の保健福祉センター、国民健康保険加入者向けの集団健診会場、がんセット検診会場の三つ。がんセット検診では、肺がん検診を含め最大五つのがん検診を同時に受診できます。

詳細は、京都市のホームページや、対象者に郵送される推奨ハガキなどで確認を。左記2次元コードからも可。

「検診のお知らせが届いたら、できるだけ早く開封して確認してください」（濱口さん）

京都市がん検診はこちら

アーカイブを配信

同講座の一部が、後日アーカイブ配信される予定です。動画視聴は、京都大学の動画サイト（https://www.channel.pr.kyoto-u.ac.jp/）で。左記2次元コードからもアクセス可。

※田崎さん出演部分、パネルディスカッションの配信はありません

〈主催〉京都市、京都大学、アストラゼネカ、ヘルステック研究所。問い合わせは、ヘルステック研究所（京都市左京区吉田上阿達町17）＝☎075(600)2323＝へ

動画視聴はこちらから